FIWC
Friends International Work Camps

フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関西委員会
定例委員会報告
2003 年 4 月号

参加者：槻美代子、入澤隆一、高橋真紀、李清華、石本絵美、松本モト、岸野春子、西村麻里、柳川義雄、青山哲也、香川朋子、志賀純子、徳永なつ、宮田久美、須川浩和、吉森晃子、福田きよ子　2003 年 4 月 12 日　交流の家にて

中国キャンプ

2003 年 2 月 22 日より 3 月 3 日まで中国広東省広州にあるハンセン病快復者定着村のヤンケン村にてワークキャンプを行いました。そのキャンプについての報告書を同封しましたので読んでください。

次回の中国キャンプにむけての活動

1、今回のキャンプで知り合いになった中国の大学の学生と連携をとって次回のキャンプを考える。（広州において FIWC 広州支部を作ってもらう）

2、次回のキャンプの参加者を募集するため、報告書と募集のビラを幾つかの施設や組織に配布する。

以上の二つを中心に話し合いを進めていきたいと思います。

月末キャンプ

4 月 25 日（金）夜～ 29 日（火）まで月末キャンプを行います。
昼間は窯小屋の改築工事のワークをし、夜はキャンパー参加型ワークショップのような形式で、過去に集積した FIWC の資料からピックアップして話し合いをしたいと思います。
主なディスカッションの議題は以下の通りです。

25 日 (金) 夜までに集合。

26 日 (土)7 時～ｴﾝﾄﾞﾚｽ：ワークキャンプとは何だろうか？

27 日 (日) 7 時～ｴﾝﾄﾞﾚｽ：ワークキャンプと定着村の関わりについて

28 日 (月) 7 時～ｴﾝﾄﾞﾚｽ：リーダーとは何か？

参加者はキャンプまでに『ワークキャンプ 35 年史』『灯の村』（各 500 円）をぜひ読んでおいてください。参加可能な方、本が必要な方は柳川まで連絡お願いします。
（柳川義雄）

韓国キャンプ

キャンプの日程：8月6日（水）に大阪出発・8月7日（木）～8月18日（月）

＜予定＞　　3 月 28 日 (金) に話し合いをしました。内容は、募集のビラについて、説明会について、キャンプ中に村をどう盛り上げていくかなどを話し合いました。
村の代表さんが、私たちがキャンプに行くことで、新しい刺激や情報を子どもたちに与えたいと言われたので、今回のキャンプでは、ワークよりも村人との“交流”に力をいれていきたいと考えています。そのため、キャンプに入る前に、先発隊のさらに前に村に訪問してどういう人が暮らしているのか、どういう生活をしているのか、家庭ワークについてなど調査し、ビデオや写真を撮ってきてキャンプに役立てていきたいと考えています。
ビラ配りは、今のところ、京都ピースウォーク、同志社大学、立命館大学、島根医科大学、武庫川女子大学等で行いました。今後も、色々な機会に実施していきます。
説明会を 4 月 19 日 (土) 大阪市中之島中央公会堂にて、4 月 20 日 (日) 京都市下京区青少年活動センターにて行います。詳細は、同封のビラを参照してください。なお、5 月、6 月にも説明会を行う予定です。
ビラを配っていただける方は、香川まで連絡お願いします。
（香川朋子）

G・W 耶馬溪キャンプ

今年も、大分県の耶馬溪、鈴木さんのお宅でキャンプをします。ワーク内容は、田植えの準備、夏野菜の定植、卵の出荷などです。自然の中で久しぶりに語り合いましょう。参加したい方、くわしいことを知りたい方は西村麻里まで連絡ください。5 月 1 日以降は鈴木さんまで連絡ください。

日程：5 月 3 日～ 5 日前後

場所：日豊本線中津駅からバス（日田行き）1 時間

連絡先：鈴木建久

（西村麻里）

光明園キャンプについて

韓国、中国のキャンプ参加者が日本の療養所を訪問し、交流することでハンセン病に対する理解を深めることを目的として岡山県長島にある邑久光明園への訪問を企画しています。

光明園では過去に 2 回ワークキャンプをしています。しかし夏のキャンプにむけて参加者を募って集まったメンバーに参加してもらいたいことから、従来韓国キャンプの準備として交流の家で行っていた『お泊り会』を長島に移動し、キャンプとしてではなく『光明園訪問』という方向で企画していきたいと思っています。

光明園へは今後その方向で交渉していきたいと思います。

時期は未定ですが 7 月にしようと考えています。なお、それにむけて企画し、次回の光明園キャンプへとつなげてくれるリーダーを募集していますので、興味のある方は志賀まで連絡お願いします。
（志賀純子）

韓国定着村の将来を考える会

日時：3 月 31 日夜 7 時より深夜 1 時まで、韓国全羅北道、益山市圓仏教総部に参加。

定着村対策を ´60 年代に提唱した柳駿（ユジュン）博士を筆頭に、大学の福祉関係、社会学関係、医学関係の教授と近くの定着村の代表者が参加する討論会に参加しました。

日本からは広島からハンセン病訴訟に関わったグループの代表者が一名参加、それに私と関西委員会委員長のユ・ソンド君が参加しました。以下私なりの会議の要約です。

日本統治下で始められた強制隔離政策の流れを打ち切るために、´60 年代に柳駿博士が提唱した定着村対策は、当時の韓国の困難な状況下ではかなり有力な政策だった、という評価（WHO は当時から批判的）と共に集団で外に出したために未だに根強く残る偏見がある。それらの問題を何らかの形で解消しなければ定着村対策は完成しない。

定着村対策をアップグレードするためには、どうすれば良いかがテーマとなった。日本からの発表は「啓蒙のための冊子づくり」「絵本製作」などで学校現場に啓蒙活動が入り込んでいるというものが中心だった。

それを受けて韓国でもそういう努力をすべきだという議論がなされた。

私は、啓蒙が全てに行き渡っても残る部分が問題で、定着村の人たちとの交流こそがそれらを解決すると主張した。この会は次回 5 月にも開かれる。

（柳川義雄）

FIWC 関西委員会会計より

カンパ及び委員会費を頂いた方（2003 年 4 月 13 日まで）

五十嵐昭夫さん、赤桐邦子さん、山口貴士さん、阿木幸夫さん、井下祥子さん、井木澤稔さん

有難うございました。

これからも、郵便振替 00910-0-250615 までよろしくお願いします。

（志賀純子）

次回の定例委員会

日時　5 月 17 日 (土) 19 時から交流の家で行ないます。

担当　徳永なつ

今月の担当は槻美代子でした

発行：フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関西委員会

委員長　劉成道（現在韓国留学中）

委員長代理、連絡先　志賀純子

※ PDF 版では個人の電話番号など個人情報を掲載していません。必要な場合はメールにてお問い合わせください。

web@mognet.org

PDF 版製作：茂木亮